

『環境JISの策定促進のアクションプログラムについて』 －規格のグリーン化に向けて－

(日本工業標準調査会 環境・資源循環専門委員会 戦略WG報告書 の概要)

(ポイント)

1. 日本工業標準調査会 環境・資源循環専門委員会 戦略WGは、環境・資源循環に関する約130の標準化テーマを含む環境JIS中期計画を策定。

- 土木・建築 (計30件)
エコセメント／溶融スラグ細骨材／建築材料の揮発性有機化合物等の放散測定方法 等
- 材料 (計38件)
マグネシウムくず分類基準／塗料中のホルムアルデヒドの測定方法 等
- 運輸・物流 (計6件)
ハイブリッド自動車の燃費試験方法／プラスチック製平パレット 等
- 機械 (計7件)
往復動内燃機関の排気排出物測定方法／コンクリート塊再生処理用破砕機 等
- 情報・電気 (計12件)
鉛フリーはんだ／電気・電子機器の環境適合設計ガイド・材料開示質問表作成ガイド(IEC対応)／事務機器から排出される化学物質の測定方法 等
- 消費生活・安全 (計17件)
リサイクル材利用文房具／易リサイクル性に配慮した一般衣料品 等
- 環境測定・廃棄物等 (計19件)
用水・排水中の有機すず等の試験方法／再生材料・製品含有微量化学物質測定方法 等

2. 欧州動向調査等を踏まえつつ、3R(リデュース、リユース及びリサイクル)関連規格を含めた環境技術の国際標準化の重要性を明確化。特に、ISOガイド64(製品規格に環境側面を導入するための指針)の活用による、我が国独自の技術を反映した環境配慮規格の策定の必要性を提言。

3. 戦略WGは、日本工業標準調査会の各技術専門委員会に対する勧告案をとりまとめ、環境・資源循環専門委員会(平成14年4月16日開催)に報告。これを踏まえて、環境・資源循環専門委員会は、5月1日付で各技術専門委員会に以下の勧告を行った。

(1)中期的な計画(平成14～16年度+ α)に基づく規格の策定及び調査研究の実施

- ・「環境JIS策定中期計画」を参考にして、規格の策定に取り組むべきこと。
- ・規格の策定に先だって、試験・データ収集等を行う必要がある場合は、必要な調査研究等を実施すること。(独立行政法人 産業技術総合研究所等の活用等)。

(2)分野別環境配慮規格整備方針の策定

- ・平成14年度中を目処に、分野別環境配慮規格整備方針(環境配慮規格を策定するための分野別の方針であって、ガイド又はマニュアル的なものを含む。)を策定すること。

4. 今後の課題として、環境JIS策定における、①消費者ニーズの的確な反映、②国際標準化活動との連携及び③研究開発プログラム(NEDO、産総研等)との連携を提言。